

氏名	藤原 大介
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第4451号
学位授与の日付	平成27年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)

学位論文題目	Postprandial serum C-peptide value is the optimal index to identify patients with non-obese type 2 diabetes who require multiple daily insulin injection: Analysis of C-peptide values before and after short-term intensive insulin therapy (頻回インスリン治療の必要な非肥満2型糖尿病患者を見分ける最適な指標は食後血中C-ペプチド値である： 短期強化インスリン治療前後のC-ペプチド分析)
--------	--

論文審査委員	教授 和田 淳 教授 西堀 正洋 准教授 増山 寿
--------	---------------------------

### 学位論文内容の要旨

2型糖尿病はインスリン分泌能の経年的低下を示す進行性疾患であり、多くの患者は最終的にはインスリン治療が必要となる。われわれは、2型糖尿病に対するインスリン治療の最も有用な選択指標を検索することを目的に、非肥満2型糖尿病において頻回インスリン注射療法を含む各種薬物治療群間で各種 **C-peptide immunoreactivity (CPR)** マーカーの血中レベルを分析した。方法は、コントロール不良の非肥満2型糖尿病に対し、短期入院による強化インスリン治療で血糖改善させたのち経口血糖降下薬を試み、経口薬無効例にはインスリンを追加もしくはインスリン治療へ変更することにより治療法を、経口薬単独・経口薬基礎インスリン併用・頻回インスリンの3群に分けた。ANOVA分析の結果、頻回インスリン療法群は他群に比し一部を除きすべての CPR レベルが低値であった。ROC分析とロジスティック解析結果は、頻回インスリン療法の必要性を判別する最も有用な CPR マーカーは朝食2時間後の CPR index であることを明らかにした。非肥満日本人2型糖尿病において CPR の一定の cut-off 値以下で、80%の特異度をもって頻回インスリン療法が必要であることを決定できる。

### 論文審査結果の要旨

コントロール不良の非肥満糖尿病患者に対して、短期入院による強化インスリン療法で治療した後に、インスリンを中止して経口血糖降下薬による治療に変更し、さらに経口血糖降下薬無効例には基礎インスリン追加もしくは頻回インスリン治療に変更した。その治療経過で経口薬単独・経口薬基礎インスリン併用・頻回インスリンの3群に分けた。頻回インスリン療法の必要性を判別する上でもっとも有用なマーカーは朝食2時間後の CPR index であり一定のカットオフ値の採用により80%の特異度で推測できた。

2型糖尿病はインスリン分泌能が経年的に低下する進行性の疾患であり、多くの患者が最終的にはインスリン療法が必要となるが、朝食2時間後の CPR index がインスリン頻回療法の必要性を予測するという結果は、臨床的に価値ある業績であると認める。

よって本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。